

短報

鳥取県に新たに帰化したトキワアワダチソウとベニバナサワギキョウ

清 末 幸 久\*

New records of the naturalized plants, *Solidago sempervirens* L.  
and *Lobelia cardinalis* L., from Tottori Prefecture, Honshu Japan

Yukihisa KIYOSUE

最近、確認された鳥取県内の帰化植物のうち、特に原産地の生育環境と類似の場所に選択的に帰化したと思われる2種を報告する。証拠標本はいずれも鳥取県立博物館収蔵庫に収められている。なお〔 〕内は鳥取県立博物館の資料番号である。

本稿を執筆するにあたり、標本の同定や従来記録に関してご教示いただき、さらに報文の記述・校閲などに多大なご指導を賜った東京歯科大学名誉教授浅井康宏博士に深謝いたします。

トキワアワダチソウ (キク科)

*Solidago sempervirens* L.

岩美郡岩美町大羽尾.2002/6/3. [998-0253-001]

—————.2003/9/18. [998-0253-002]

清末幸久採集 浅井康宏同定

本種は栽培逸出起源の帰化植物で、北アメリカを原産地としている浅井(1970)<sup>1)</sup>、浅井(1971)<sup>2)</sup>、浅井(1979)<sup>3)</sup>。日本への移入の記録は浅井(1979)<sup>3)</sup>によれば、第二次世界大戦後の兵庫県の園芸植物商に由来する系統と、昭和10年代に東京大学理学部附属の小石川植物園に栽培された系統が記録されしている。前者は富樫 誠氏採集による1950年代の標本が、また、後者は津山 尚 博士による1939年の標本が、それぞれ東京大学の標本庫(TI)に残されているという。

また、本種が日本国内で逸出帰化したのは1968年のことで、浅井康宏博士が東京都足立区の荒地で初めて見だし、トキワアワダチソウの和名を与えられたものである。そして、その近傍には本種を栽培したと思われる荒廃した畑があったことを紹介している。

今回、報告する採集地は、鳥取県東部岩美郡岩美町より日本海に伸びる羽尾岬(約1.6km)の東端近くである。岬の東側を北西から南西に走る横ずれ断層(出脇・谷本,1993)<sup>4)</sup>に沿って発達した断層崖に挟まれた、溝状地の最も奥まった場所(羽尾漁港堤防の外海側直下、図1)にある円礫を

\*鳥取県立博物館(〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2-124)

Tottori Prefectural Museum, 2-124 Higashimachi, Tottori-shi, 680-0011 Japan

含む砂浜である。溝状地は外海から幅約70m、長さ約90mで中央部には細い水路があり、トキワアワダチソウの生育地の間近まで海水が入り込んでいる。水路は細長いことに加えて多くの転石があり、外海からの波が直接打ち寄せることはなく、水路には海水の流れがほとんど認められずタイドプールの様相を呈している(図2)。

調査は2002年6月と2003年9月に実施し、いずれも開花した状態を確認できた(図3,4)。このことから、同所で定着・越年していること、同属のセイタカアワダチソウよりも花期が早く長期にわたることが確かめられた。確認できた個体数は5株で、いずれも、漂着した根茎から生育した個体であると推測され、草丈約180cmの個体がかつとも大きく、茎の太さも1cmほどであった。その茎を無毛、革質の分厚い葉がわずかに抱き、特徴的な形態を示した。

採集地の植被率は約80%で、ハマゴウ、コウボウシバが多く、その他にもトウオオバコ、スナビキソウなどの砂浜植物が優占する塩生砂地である。そのほかの帰化植物としては、メマツヨイグサ、アメリカネナシカズラが見られ、これらのすべての植生の中でもトキワアワダチソウはもっとも背が高く壮大であった(図5)。

浅井(1979)<sup>3)</sup>によれば、トキワアワダチソウは米名を Seaside Goldenrod といい、*Solidago*属の中でも海岸地帯に適応した異端的な存在であること、さらに原産地(テキサス州)での自身の観察記録に基づいて、該地では定型的な塩生植物で、海岸地帯の砂泥地に生育することを述べている。また、副島(2003)<sup>15)</sup>はトキワアワダチソウについて、荒地や湿地に生育する多年草、関東地方で野生化と記載している。

以上のことを勘案すると、この度の帰化記録は、原産地の生育状況に極めて近い環境からの国内初の報告である点と、関東地方以外からの帰化報告である点から、極めて興味深いものであると考えられる(浅井,2003)<sup>6)</sup>。

ベニバナサワギキョウ(キキョウ科)

*Lobelia cardinalis* L.

鳥取市上町樗谿(おおちだに) .2003/9/22. [997-0018-001]

清末幸久採集 浅井康宏同定

鳥取市樗谿は市街地のはずれに位置する久松山、源太夫山に囲まれた谷間(図1)を指しており、一帯は1650年建立の樗谿神社を中心に、整備された閑静な公園となっている。また、樗谿神社周辺の森は両側斜面を中心に自然度の高いスタジイ林が大部分を占め、一部に特異的とされるモミ林があり(田中・清水,1993)<sup>13)</sup>、樗谿神社社叢として鳥取市の指定文化財となっている。

採集地は樗谿神社に近く、整備された散策道からわずかにはずれた狭い草地で、スタジイ林に囲まれ、近くに小さな谷川が流れていることから、日中に訪れてもひんやりとした感じがする場所で

ある。草地は周囲の林内よりも明るく、カサスゲ、キツネノマゴ、エノコログサなどの繁茂が認められるやや湿った場所である（図6）。この場所は日常的にヒトが足を踏み入れるところではないが、公園管理の一環として年に2回ほど刈り取り作業が行われるとこのことで、採集した個体には刈り取り痕が認められ花序が短くなっていた（図7）。

ベニバナサワギキョウは北アメリカのフロリダからテキサス地方にかけて分布し、日本では洋種サワギキョウ、宿根ロベリアの流通名で園芸用植物として商品化されている。好湿性であること、夏の直射はさけるべきであること、越冬は比較的容易であることなどが知られている。これらの栽培条件は、この度の確認地の環境に合致している。

本種の逸出記録は明確でないが、刈り取り痕があること、採集地の環境が適正な生育条件を備えていることから、逸出し帰化状態になった初めての例として報告する。

## ま と め

帰化植物とはかく土地の改変や攪乱、物流と関連づけて話題となることが多い。しかし、本稿で報告した2例は、どちらも過去と比較して極端な環境変化や人為的改変があった場所ではない。一見、何の変化もない従来からの環境中に逸出起源の帰化植物が侵入してきた例であり、まさにAlien Plantsの面目躍如といえる。また現在、このような例は全国的に見ても加速度的に増加していると考えられる。在来種、帰化種にこだわらず、刻々と変化する植生を把握するネットワークの必要性が痛感される。

## 文 献

- 1) 浅井康宏(1970) 花ごよみ—帰化植物. 科学朝日30(6):15-21 (カラーグラビア). 朝日新聞.
- 2) ———(1971) 戦後帰化植物考-特にその侵入、分布経路を中心として-植物と文化 (1):4-14.八坂書房
- 3) ———(1979) 外来の*Solidago*属植物に関する追記.植研54(11):349-352.
- 4) ———(1985) 帰化植物の侵入と分散.朝日百科世界の植物12:3203-3209.朝日新聞社.
- 5) ———(1993) 緑の侵入者たち. 帰化植物のはなし.朝日選書474. 294pp.朝日新聞社.
- 6) ———(2003) 筆者への私信
- 7) 長田武正(1972) 日本帰化植物図鑑. 42. 北隆館.
- 8) 神奈川県植物誌調査会編(2001) 神奈川県植物誌2001. 1580pp.神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 9) クリストファー・ブリッケル編(2003) A—Z園芸植物百科事典.1080pp.誠文堂新光社.
- 10) 講談社編(1986) 講談社園芸大百科事典.1358pp.講談社
- 11) 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七(2001) 日本帰化植物写真図鑑. 555pp.全国農村教育協会
- 12) 棚田耕吉(1997) 鳥取県西部域における帰化植物の推移と現況. 鳥取生物.(30):21-24.
- 13) 田中昭彦. 清水寛厚(1993) 樗谿(おおちだに)神社社叢.28-29.清水寛厚(編) 鳥取県のすぐれた自然—植物編一. 鳥取県衛生環境部自然保護課.
- 14) 出脇敬明,谷本勇(1993) 羽尾岬と竜神洞,160-161.豊島吉則・赤木三郎・岡田昭明(編) 鳥取県のすぐれた自然—地形・地質編一. 鳥取県衛生環境部自然保護課.
- 14) 副島颯子(2003) シオン連 Trib.*Astereae*,211-217.清水建美編(編) 日本の帰化植物. 平凡社.

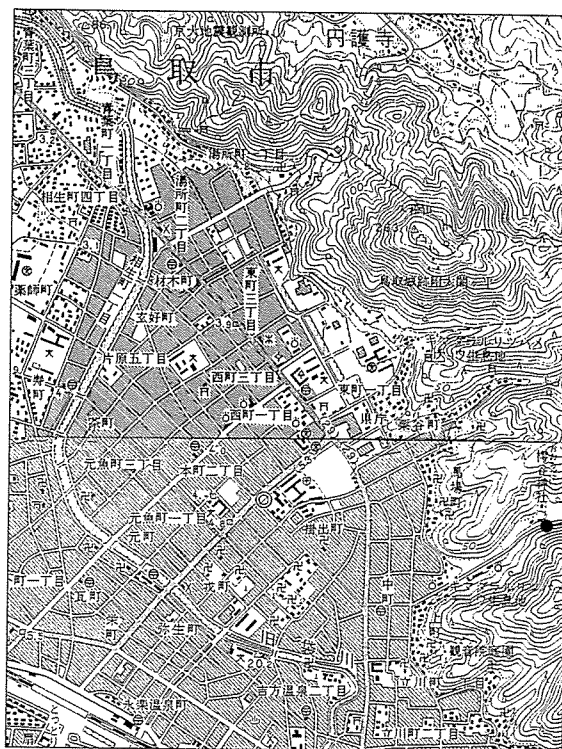
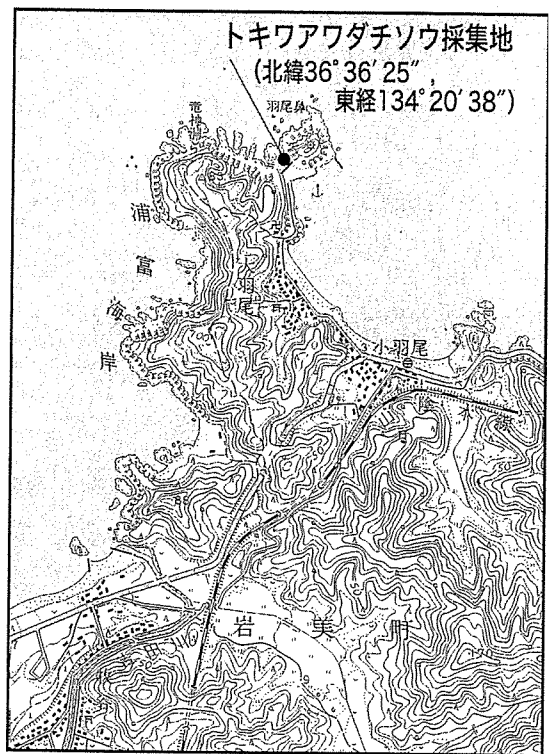
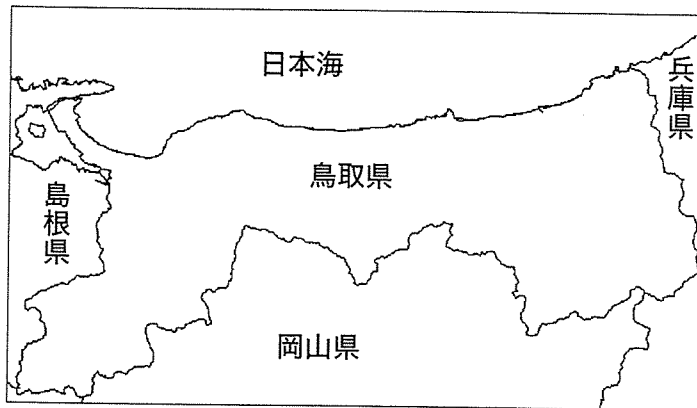


図1. トキワアワダチソウとベニバナサワギキョウの採集地  
位置情報は世界測地系による  
「国土地理院発行の2万5千分の1地形図(田後・鳥取北部・鳥取南部)」

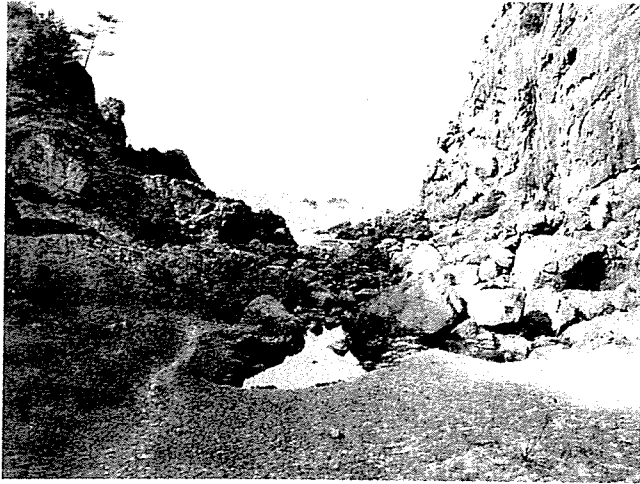


図2 断層崖に挟まれた溝状地  
中央が転石にうまった水路



図3 トキワアワダチソウ  
(2002年6月3日) 採集



図4 トキワアワダチソウの花序  
(2002年9月18日 撮影)



図5 トキワアワダチソウとその生育環境



図6 ベニバナサワギキョウとその生育環境  
(2003年9月22日 撮影)



図7 刈り取り痕のある  
ベニバナサワギキョウ